

あこがれだったFIGHTERS

高校で主将を任されたが県大会を突破することができず、どうしても関学でフットボールがしたい、自分の力を試したいと親の反対を押し切って進学した。1年生からオフの日もトレーニングし毎日反省日記をつけて、レギュラーをとることに真剣だった。入部仕立てのチャラチャラしている同期達を、自分とは違うと思っていた。秋シーズンから交代で試合に出場し、2年生からレギュラーとなった。あの憧れていた関学でレギュラーをとれて自分の力がわかった。これで目的を果たし関学に通う理由がなくなった。そのシーズン後に鳥内監督にクラブをやめたいと伝えた。

幼いころからの決意

なぜか？私が小学3年の時、3つ上の兄が交通事故にあい、全身をうって意識不明の重体となった。死を覚悟したが病院のスタッフのおかげで命は助かった。しかし重度の障害を負って生きることに、身の回りの全てに介助を要し、知能の発達障害も家族の負担となった。がんばって生きる兄、でも元に戻らない現実、将来の不安などを考えていると、幼いころから次第に自分が医師になって彼を支えようと考えていた。だからこのまま関学に通っても将来がなかった。クラブをやめ医学部をめざし、受ければ大学もやめようと思った。

クラブを離れた日々

クラブを離れ受験勉強をする日々が始まった。受かるかどうかわからないのにクラブをやめて、本当にこれでよかつたのかと葛藤する毎日が続いた。フットボールに打ち込む仲間の生き生きとした姿と比べると、不安を抱え暗い日々を送る自分が情けなかった。キャンパスですれ違うことが怖く自分に自信が無くなった。悶々とした日々の中で、真剣に自分と向き合ってた。今できることは何か、今しかできないことは何か、今したいことは何かと、そしてチームに戻ることを決心した。

青山直樹

NAOKI AOYAMA

「今を生きろ！」



かけぬけた1年

チームに戻った時、これまでのことは無かったようにみんなは温かく迎えてくれた。もう試合にでればいいという考えはなかった。ただフットボールができる喜びと、それまで支えてくれた人々への感謝と、まだなっていない日本一になりたいという気持ちだけだった。4年生になって主将になったが、立命館の初優勝で終わった。あつという間の一年で、負けたという結果だけが残っている。それは、すべてを捨ててフットボールにかけたという事実さえも否定してしまつた。本当に真剣だったのか、他にできることがなかったか、もっといい方法はなかったか、自分が主将でなければ勝てたかもしれないという後悔だけが残った。その思いは卒業して20年を経とうとしていても夢となって現れる。

再び医師を目指す

卒業後、睡眠3時間、勉強17時間、1年で受からなければ後はないと覚悟して、受験勉強に没頭した。大変だったろうと言われたが、4年生を経験し負けて終わった自分には、自分だけやれば何とかなる、結果は全て自分次第という受験はそうでもなかった。目標とした点を上回ればいいだけで、そのための方法がわかっていれば結果はついてくる。フット

ボールで日本一になるには自分だけではどうしようもない。自分だけがやっても結果はでない。全員が同じ方向を向いて、全員が努力をしなければならぬ。しかも、どれだけの努力をしなければならぬのか、自分だけが主将でなければ勝てたかもしれないという後悔だけが残った。その思いは卒業して20年を経とうとしていても夢となって現れる。

兄に誓った使命

医学部に進学した時、やつと暗いトンネルから抜け出し人生の筋道が見え、吹っ切れた気持ちだった。あとはこのレールに乗って進めば医師になれるし、卒業すれば地元に戻って兄を支え地域の医療に貢献しようと考えていた。一生懸命勉強して学費は免除され、アルバイトで生計を立てた。しかし臨床研修が終わりに近づく卒業間近の6年の時、兄はけいれん発作のため突然他界してしまつた。目的を失って空虚となった。医学部もやめてしまおうかと思つた。しかし、ただ患者さんを兄と思つて支え治療していくことが自分の使命として、医師として今を生きている。

現役生へ

FIGHTERSとは何か、自分とは何か、目標は明確か、方法は具体的か、決意は揺るぎなく、継続し実行できるか。負ければ全てを否定することになる。負ければ一生後悔することになる。勝利という結果のために、今を正々堂々と懸命に生きてください。

青山直樹（あおやま なおき）／1990年滋賀県八日市高校卒業、1995年関西学院大学社会学部社会学専攻卒業、2002年徳島大学医学部卒業、医師国家試験取得、2002年京都大学整形外科、現在、あんしん病院（神戸ポートアイランド）に勤務し、年間500件以上のスポーツ選手の手術を行う。日本整形外科学会、日本脊髄脊髄病学会認定医、日本体育協会スポーツドクター。アメリカンフットボール部では、現役時（OLG）、4年生時では主将を務めた。現在はメディカルスタッフとしてチームを支える。